

青少年人口
男 9,921人 (- 57)
女 9,467人 (- 96)
計 19,388人 (- 153)
平成28年10月1日現在
( )内は、前年度比

# あきしまの青少年

NO.241  
2016  
10/7

※ 6歳～24歳人口の合計 編集・発行/昭島市青少年問題協議会事務局(子ども家庭部 子ども育成課内) 〒196-8511 昭島市田中町1-17-1 ☎042(544)5111 内線2254

- おもな内容**
- 1面 小学生国内交流事業・台風10号お見舞いの言葉、募金箱設置について
  - 2面 拝島高等学校 巨大貼り絵作成 黒田 清輝「舞妓」ゴッホ「タンギー爺さん」/子ども家庭教育講座 / 11月20日開催 青少年フェスティバル /中学生リーダー講習会が終了 / 推薦してください 青少年の善い行い・青少年健全育成協力者/児童センター改修工事のお知らせ/放課後子ども教室からお知らせ/4コマまんが



## 小学生国内交流事業を実施しました

市では、平成7年度より昭島市と岩手県岩泉町の小学生との間で「小学生国内交流事業」を実施しています。5年前に発生した東日本大震災は、岩泉町にも大きな被害をもたらし、今日においても復興への取り組みが続けられています。こうした中、今年も多くの関係者、関係機関のご協力をいただき、「小学生国内交流事業」を実施することができました。子どもたちが製作した壁新聞が市役所1階市民ロビーにて展示されます。是非ご覧ください。

(日時：10月11日～14日 午前8時30分～午後5時)



### 岩泉町の子どもたちが昭島市へ

8月5日～8月8日に、岩泉町の子どもたちが昭島市を訪れました。

1日目、合同宿泊をする松原町高齢者福祉センターで初めて顔を合わせた子どもたちは、やや緊張気味な表情を見せていましたが、ゲーム等を通して、対面式を終える頃にはすっかり打ち解けた様子でした。午後からは、環境コミュニケーションセンターと東京シマダヤ(株)工場を見学しました。シマダヤでは流しそうめんをこちそうになりました。また、お土産にたくさんのおそばやそうめんをいただき、夕飯時においしく食べました。



お別れ会



くじらパレード

夕食後は、「交流の夕べ」が開かれ、子どもたちは、大勢の人を前に班ごとに自分たちの住む町、昭島市・岩泉町を紹介しました。

どの班の発表も自分の町の良いところを確実に捉えた大変素晴らしい内容でした。

2日目は、昭和記念公園のレインボープールを訪れました。暑い日のプールはとても気持ちよさそうでした。岩泉町にはない、ウォータースライダーや流れるプールで楽しく泳ぎ、交流を深め、その後、昭島市の子どもたちの家庭でホームステイをしました。



レインボープール

3日目は、「昭島市民くじら祭」のくじらパレードに参加し、真夏の空の下、子どもたちは汗だくになりながら、昭島駅からくじら祭会場まで無事に歩くことができました。疲れたけれど、楽しい思い出となりました。

4日目の朝、あつという間違った昭島市での交流は終わり、市役所市民ホールでお別れ式を行いました。「また、岩泉町で会いましょう」を合言葉にお別れました。

バスに乗った友達を涙で見送る子、バスを追いかけ、いつまでも手を振っている子、短い間でしたが、強い結びつきを感じました。

### 昭島市の子どもたちが岩泉町へ

昭島市での交流から12日後、8月20日～23日に昭島市の子どもたちが岩泉町を訪ねました。

1日目、盛岡駅からバスで「岩泉町民会館」へ到着後、対面式を行い、久しぶりの再会に子どもたちはとても喜んでいました。今年も岩泉町が団体の開催地となっており、国体炬火採火式にも参加させていただきました。この日は合同宿泊がありました。あいにくの悪天候のため、室内にて室内版キャンプファイヤーを楽しみました。



キャンプファイヤー(屋内)

2日目は、午前中に日本三大鍾乳洞の一つである龍泉洞を見学しました。龍泉洞の中はとても寒く、ドラゴンブルーの地底湖や洞内に棲むウサギコウモリの飛ぶ姿を見て、神秘的な魅力を満喫しました。その後、雨天のため、予定をしていたツリウスの見学は中止となり、町内のB&G海洋センターにてレクリエーションを楽しみました。午後からはホームステイ先の岩泉町の子どもたちの家庭へ向かいました。



国体炬火点火式

3日目は、岩泉の各小学校へ一日体験入学。昭島とは違った学校生活を過ごしました。

4日目、いよいよお別れの日です。一緒に写真を撮ったり、握手をしたり、別れを惜しんでいました。

岩泉町は今年8月30日、台風10号により甚大な被害を受けました。度重なる災害にお見舞い申し上げます。また、犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。

昭島市では、職員の派遣や義援金を送るなど、支援活動を行っています。市の施設に募金箱も設置いたしましたので、ご協力をお願いします。

盛岡では名物のわんこそばをおなかいっぱい食べ、100杯食べた女の子もいました。

子どもたちが、この事業で得られた、たくさんさんの思い出や友だち、感謝の気持ちをいつまでも大切に成長してくれることを願っています。